

## 第5学年西組 社会科学習指導案

### 「南海トラフ地震とどう向き合うか ～自然災害とともに生きる～」

学習指導者 半澤 友博

#### 1 学級（34名）の実態

##### （1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果では、社会科の授業で目当てに向けて、今までに習ったことが使えないかと考えている子供は24名である。実際の授業では、既習の資料や教科書を見たり、社会科の見方・考え方を参考にしたりしながらこれからどうやって解決していくか一人で考えをもっている子供が14名いる。一方で、社会科の見方・考え方のどれを使えばよいか分からず友達の発表を待つだけの子供も20名いる。

##### （2）本単元の学習に関する学級の実態

日本の自然災害はどのようなものがあるのかという問いに対して「台風」「地震」「大雨」「火山噴火」などと答えている。また、33名の子供が南海トラフ地震に対してかなりの危機感をもっている。地震が起きた時の対策については、避難場所の確保や堤防を建てるなどと市が取り組んでいる対策については多くの子供が理解しているが、地震速報や補助金などの国の取組や、国と県や町の協力について答えていた子供はほとんどいない。

#### 2 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿と習得を目指す「解決の見通しをもつ」方法

**課題設定** 知りたいことや疑問を解決するために必要なことを話し合い、追究すべき事実を考え、課題を設定する。例えば、⑤時では「住民の取組を調べれば自分たちが知りたいことが分かるね」「そうだね。今回は黒潮町の住民がどのように命を守っているか調べていこう」などと課題を設定する。

**解決の見通し** 方法：「社会科のこつ（時間・空間・立場）の中から使えそうなものを選ぶ」

社会科のこつ（時間・空間・立場）を手掛かりに、本時使えそうな資料や既習を考え、友達と話し合いながら解決の見通しをもつ。例えば、⑤時では「僕は、立場で考えるよ。行政の人が避難タワーを作っていたから、住民はそれを使って何かしていると思う」「なるほど。私は、空間を広げて、坂出市の取組から考えるよ。坂出市と同じように市が言っている防災バッグのようなものを作っているのではないかな」「確かに。坂出市を参考にして考えても分かりそうだね」などと解決の見通しをもつ。

**解決** 見通しを基に、時間的視野や空間的視野、立場を広げながら、日本で起こる自然災害やそれに対する取組について友達と調べたり、説明し合ったりしていく。また、行政の取組や住民の取組、それに関わる人の思いを考えていくことで、自然災害が自然環境などと関連して発生していることや自然災害から国民生活を守るために、国や県などが様々な対策や事業を進めていることについて理解を深めていく。例えば、④時では「ワークショップの資料を見ると、町役場の人が各地区に何度も行っているね。そこで住民とどんな話をしたのだろうね」「確かに。そこで住民は高齢者がいるから避難路に手すりを付けて欲しいなどと伝えていったんじゃないかな」「町役場の人はそれを受け止めて、実際に手すりを付けて、その地区ならでは課題を解決していったということだね」「避難路を作るにはお金がいるね。それを国や県から補助してもらっているんだね」「国と町役場も連携しているんだね」などと、町が国や県とも協力しながら対策に取り組んでいることを捉えていく。

**振り返り** 社会科のこつと友達との関わり方を観点とした振り返りカードに記述し、必要に応じて伝え合う。また、「〇〇さんのおかげで、気候と自然災害が関連していることが分かったよ。ありがとう」などと友達と関わるよさを感じたり、時にはよかった友達に感謝が書かれている付箋をノートに貼りに行くことで自己の貢献を感じたりしていく。

**次の問題発見** 本時分かったことや単元の目標を振り返り、知りたいことや疑問に思うことから、次時の問題を発見していく。例えば、④時では「住民が主体の取組はあるのかな」「住民が独自でしている取組はあるのかな」「行政の取組に対して住民はどんな反応だったのかな」のように次時の問題を発見していく。

### 3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ②時

①時に日本の自然災害が多いことを捉えた子供たちに自然災害についての脆弱性指数の資料を提示する。自然災害は多いのに、自然災害のリスクがかなり低いと考えられている事実を示すことで、自然災害に対して、誰かが何か対策しているはずだという意識を高め、「自然災害から命や暮らしを守るためにだれがどのような取組を行っているのか明らかにしよう」という単元の目標を設定する。

### 4 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 6/7)

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p><b>① 日本ではどのような自然災害が起こっているのだろう</b></p> <p>4年生での学習や南海トラフ地震を想定した経験を想起したり、災害年表で日本の自然災害について調べたりする中で、日本は自然の恵みがある一方、自然災害が多いことを知る。また、災害時の写真資料から、自然災害が国民生活に及ぼす甚大な影響を理解する。</p> <p><b>② 日本はどのようにして自然災害が多いのだろう</b></p> <p>災害年表や自然災害発生ランキングから発生の原因への関心を高める。日本の気候や地形の学習で使用した資料を基に、日本の自然災害の多さは日本の気候や地形と関連があることに気付く。脆弱性指数の資料から、単元の目標を設定し、予想をし、知りたいことを共有する。</p> <p><b>③ 日本では自然災害に対してどのような取組を行っているのだろう</b></p> <p>教科書を概観しながら雪害、地震災害、風水害、火山災害、津波災害などの自然災害に対して行政がどのような対策をしているのか大まかに知る。その後、調べていきたいことを話し合う中で自分達に身近な南海トラフ地震が近いうちに起こるという事実から地震の対策について調べていきたいという関心を高める。さらに、南海トラフ地震の被害想定資料から黒潮町を調べていくことを共有する。</p>	<p><b>【認知段階】</b></p> <p>これまでの勉強で「社会科のこつ（時間・空間・立場を広げて考える）の中から使えそうなものを選ぶ」と見通しをもって解決できることを教示している。また、一人で難しい時には友達がどのように見通しをもっているのか見たり、聞いたりすればよいことも教示している。さらに、方法を使うことで何を手掛かりに解決していけばよいのか分かるとともに、考えの根拠をもつことができ、より目当ての達成に近づくよさを共有している。</p>
二	<p><b>④ 黒潮町の国見さんたちはどのように命を守ろうとしているのだろう</b></p> <p>黒潮町の災害対策年表や写真資料、町役場の人の話から、津波避難タワーの建設や避難路の設置、ワークショップの開催などを行っていることや、被害者をゼロにしたいという町役場の人の思いを知る。また、避難路設置までの過程を調べ、黒潮町は国から補助金をもらったり各地区の住民と何度も話し合ったりしながら住民と協力して対策を行ってきたことを理解する。</p> <p><b>⑤ 黒潮町の住民たちはどのように命を守ろうとしているのだろう</b></p> <p>住民の避難訓練の様子や防災シンポジウム、地区防災計画の資料から住民の取組を知る。最近では防災ツーリズムなどのツアーを始めるなど、住民主体の取組が増えていることも知る。</p> <p><b>⑥ なぜ住民の意識は高くなったのだろう</b></p> <p>既習を基に、行政からはじまり自治会長、住民と色々な立場の人が防災に関わるようになってきたことを整理する。年表を基に考えることで行政の人の取組の重要性に気付き、それに住民が応えたことで住民の防災意識が向上したことを理解する。</p>	<p><b>【想起段階】</b></p> <p>解決の見通しの場面では、「目当てを立てた後はどうすればよかったのかな」と問い、方法を想起できるようにする。また、方法の想起が不十分な子供に対しては、想起できている友達に聞いてみるように促す。</p>
三	<p><b>⑦ 地震以外の災害に対してどのような対策を行っているのだろう</b></p> <p>自分がさらに調べたい災害を選ぶ。選んだ自然災害に対するハード面の対策だけでなく住民主体の防災の取組について調べる。全体交流でまとめる中で、どの自然災害においても行政が対策を行い、住民と協力しながら災害と向き合っていることを理解する。</p>	<div data-bbox="1086 1682 1423 1910" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">解決の見通しをもつために</p> <hr/> <p style="text-align: center; border: 1px solid red;">社会科のこつの中から使えそうなものを選ぶ</p> <div style="text-align: center;">  <p>友達とも協力しながら！</p> </div> <p style="font-size: small;">何を手がかりに解決していけばよいのか分かる考えの根拠をもつてめあての達成に近づく</p> </div> <p><b>【方法に関する掲示物】</b></p>

5 本時の学習

目 標	国見さんたちのこれまでの取組と住民の取組や意識を関係付けることを通して、色々な立場の人が防災に関わっていることに気付き、住民が防災意識を高められた理由を多角的に表現できる。
--------	--

学習活動	主な子供の意識
見 通 し	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定し、解決の見通しをもつ。</p> <p>最近住民主体で防災ツアーをしているくらい防災意識が高かったね。 初めはあきらめの気持ちばかりだったんだね。 <b>なぜ住民の意識は高くなったのだろう</b> A 行政の立場で考えるとよさそうだ。国見さんがしたことが関係ありそう。 B 確かに。具体的にはどの資料なのかな。 A 国見さんたちがした一人一人の職員配置の資料だよ。 B なるほど。それなら、その後のワークショップも関係しそうだね。</p>
行 動	<p>2 学習課題に対する予想を考え、話し合う。 (1) 個人または自由交流 (2) 全体</p> <p>A 国見さんが津波避難タワーや避難路を実際に作ったからだよ。それを実際に見た住民の人がこの近さでこの高さなら自分でも逃げることができそうだと思うようになったのかもしれないね。 B 確かに。それと、避難路を作る前に何度もしていたワークショップも意識を高める影響があったと思うな。行政と住民が何度も話をして避難路に意見が反映されるからやろうという気持ちになったんだよ。 A なるほど。実際に自分たちの意見が形になり、目に見えたことで、実際に逃げてみようという意識に変わってきたのかもね。 B そうだね。また、実際に避難してみると大丈夫そうという意識も出てきたのかもしれないね。 行政や住民の取組があり、様々な立場の人が関わったからだね。</p>
見 通 し	<p>3 どのように意識が高まったのか整理する。</p> <p>まとめて見るとどのように住民の意識が高まったのだろう。 A 行政が避難タワーなどを作り、それを使って住民は避難訓練をしているね。 B そうだね。年表を見ても行政が初めにたくさん取組をしていてその後住民が取組を始めているね。</p>
振 り 返 り ・ 見 通 し	<p>4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <p>学生の取組や住民同士の取組も大切だけど、それを作った初めのきっかけは行政だね。そこから行政と住民、住民同士の取組が広がり、だんだんと市民の意識が変わっていったんだね。 今日の勉強での納得ポイントを見付けよう。 A Bさんの「行政の取組と思いきり意識が高まった」という意見だよ。 B ありがとう。Aさんの「津波タワーを建てた国見さんの取組からだ」という意見もよく分かったよ。 A ありがとう。今回は行政の立場から考えられたから、次は住民の立場からも考えていくようにしたいな。 地震はよく分かったから、他の自然災害をもう少し調べたいな。きっと住民の意識を変える取組や住民との連携がありそうだよ。</p>

評 価	<p>時間的視野や立場を広げるといった社会科のこつに着目して解決しようと思通しをもち、資料を根拠にして友達と話し合い、行政の取組に住民が応えたから意識が高まったなどと多角的に表現している。</p> <p style="text-align: right;">【方法：発言、様相、ノート】</p>
--------	---

6 本時の詳細（                    は、他者との関わりを促す手立て）

～見通し～ **学習活動 1**

授業の初めに子供たちは、補助黒板やノートなどを基に前時の学びを自発的に振り返っていきだろ  
う。そして、避難訓練の参加率や南海トラフ地震の想定を受けた際の住民の声を紹介することで2012  
年の住民の意識の低さを知る。その気持ちに共感させながら、今の高い意識を振り返りながら意識の  
高低を板書で視覚的に示し、その間にはどのような経緯があったのか知りたいという追究意欲を高め、  
「なぜ住民の意識は高くなったのだろうか」と課題を設定する。そして、教師が「目当てを立てた後どう  
すればよかったのかな」と「解決の見通しをもつ」方法の想起を促し、社会科のこつの中から使えそ  
うなものを選び、使えそうな資料や既習を考え、解決の見通しをもてるようにする。その際、社会科  
のこつを手元で見られるようにしたり、補助黒板に社会科のこつを掲示したりしておくことで方法を  
使いやすくしておく。また、ペアで見通しを  
確認し合う時間をとる。その後、全体で共有  
する際に、子供の発表したことを板書すると  
ともに、どの資料を使えばよいか視覚的に分  
かるように補助黒板に時間（オレンジ）空間  
（青）立場（ピンク）に色分けして示す。



【社会科のこつヒントカードの一部】

～行 動～ **学習活動 2・3**

学習活動 2 では、どのようにして住民の意識が高まったのか考え、これまでの資料を関係付けなが  
らノートに行政や住民の取組がどのように住民の意識を高めたのかを記述し、交流する。その際、行  
政の取組やその取組に用いた費用、行政と住民のワークショップの様子、住民同士の取組を補助黒板  
に残しておくことによって、本時必要になる既習事項をいつでも確認できるようにしておく。また、  
黒潮町の災害対策年表も掲示しておくことで、時間を広げて事象を関係付けながら理由を考えたり、  
町役場、高齢者、学生、区長、教員など様々な立場の人のイラストを掲示しておくことで、立場を広  
げて多角的に理由を考えられるようにする。既習の資料はノートに個別に貼っておき、手元に同じ資  
料がある状態で話し合えるようにする。全体交流では、取組の意味や資料を板書に位置づけたり、時  
系列に沿って板書したりすることで、行政をはじめ様々な立場の人が防災の取組に関わっている様子  
を確認できるようにする。

学習活動 3 では、板書全体を指し示しながら「どのように変わったのかな。何か気付くことはないか  
な」と問い、これまでの資料や考えを年表と関連させながら時系列に沿って考えを再構成する場を設定  
する。行政や住民の取組がどのように意識の高まりにつながっているのか考えた子供たちにとって、  
どのような出来事の流れがあったから意識が高まったのかまとめて考えることは難易度が高いと予想  
されるため、個別または友達と相談して考える時間を取る。また、行政の資料はオレンジ色の台紙、  
住民の資料は青色の台紙に貼っておくことで、初めは行政の取組が多く、だんだんと住民がその思い  
にこたえようと取り組み始めたことに気付きやすいようにする。そして全体交流しながら、行政や住民  
の取組同士のつながりを板書すると共にそれぞれの立場の人の写真を板書に位置付けていくことで、  
行政がまず各地区の現状を把握し、津波タワーや避難路の設置などに取り組み、それを見た住民の意  
識も高まり、黒潮町全体の住民の意識が高まってきたという流れがあることに気付くとともに、初め  
のきっかけは行政の対策であることに気付き、行政の取組の重要性を再認識できるようにする。

～振り返り・見通し～ **学習活動 4**

本時の学習をまとめる。その後、子供たちはこれまでの学習経験から、社会科のこつと友達との  
関わり方を視点とした振り返りシートを用いて、自ら学び方について振り返っていきだろ  
う。個人で振り返りができた人から、課題解決に役立った友達のよかったことを付箋に書き、渡す交流をするこ  
とで、友達と関わるよさや自己の貢献を感じられるようにする。その後、見通しを立てて学習してど  
うだったか問い、方法を使うよさを感じられるようにする。最後に、単元の目標についてまだ分から  
ないことがあるか尋ねることで、次時の問題を発見しやすくする。

